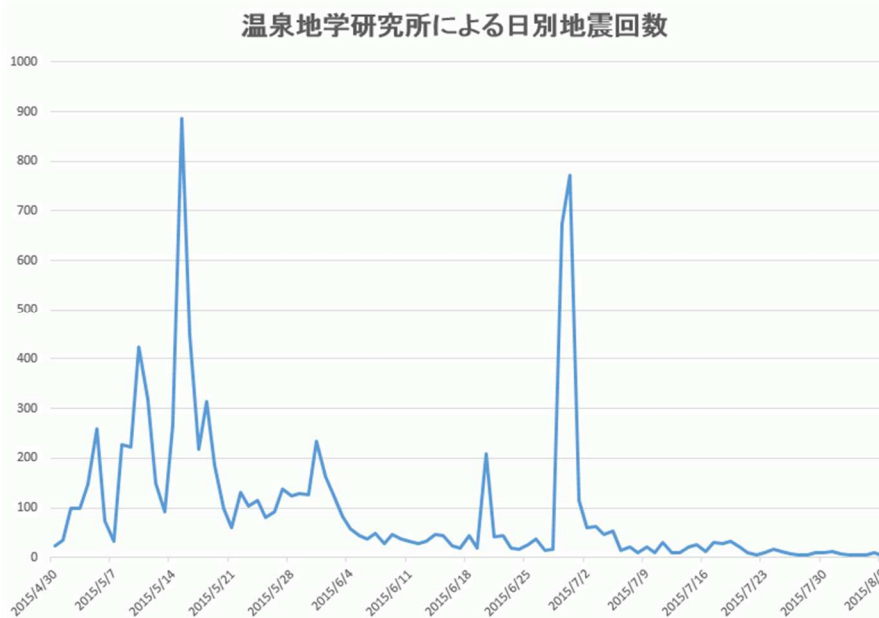


箱根の続報

噴火警戒レベル3が続いている箱根火山ですが、地震活動はほとんど収束した状態が続いていますが、やはり火山ガスの放出レベルが高いまま（もちろんゆっくりとは、放出レベルは低下しています）となっており、急激な収束とはならないと考えられています。下のグラフは今年の4月30日から8月6日までの箱根山周辺の日別地震発生数です。

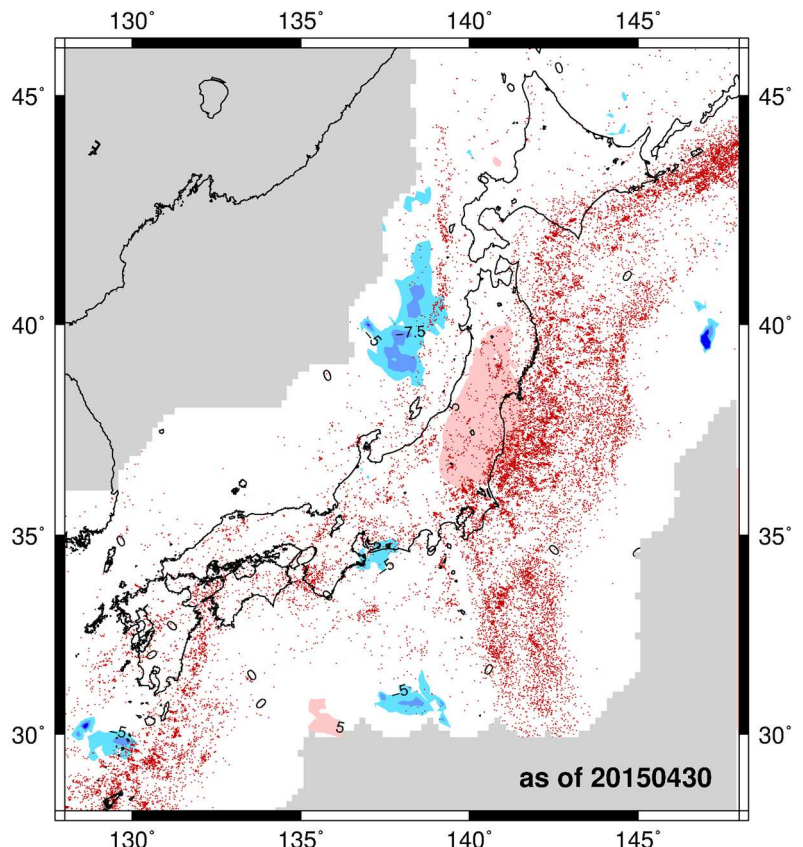


このように地震活動そのものはほぼ平常に近づきつつあります。

日本列島全域の地下天気図

地下天気図というものは、たとえば本物の天気図では地上気圧の場合もありますし、上空5000mの気圧を示した天気図というものもあります。地下天気図では解析に使用する地震の大きさ（どこまで小さな地震を使用するのか、どれくらいの期間の平均を採用するのか等）や領域などに色々な選択肢（パラメータ依存性といいます）があります。

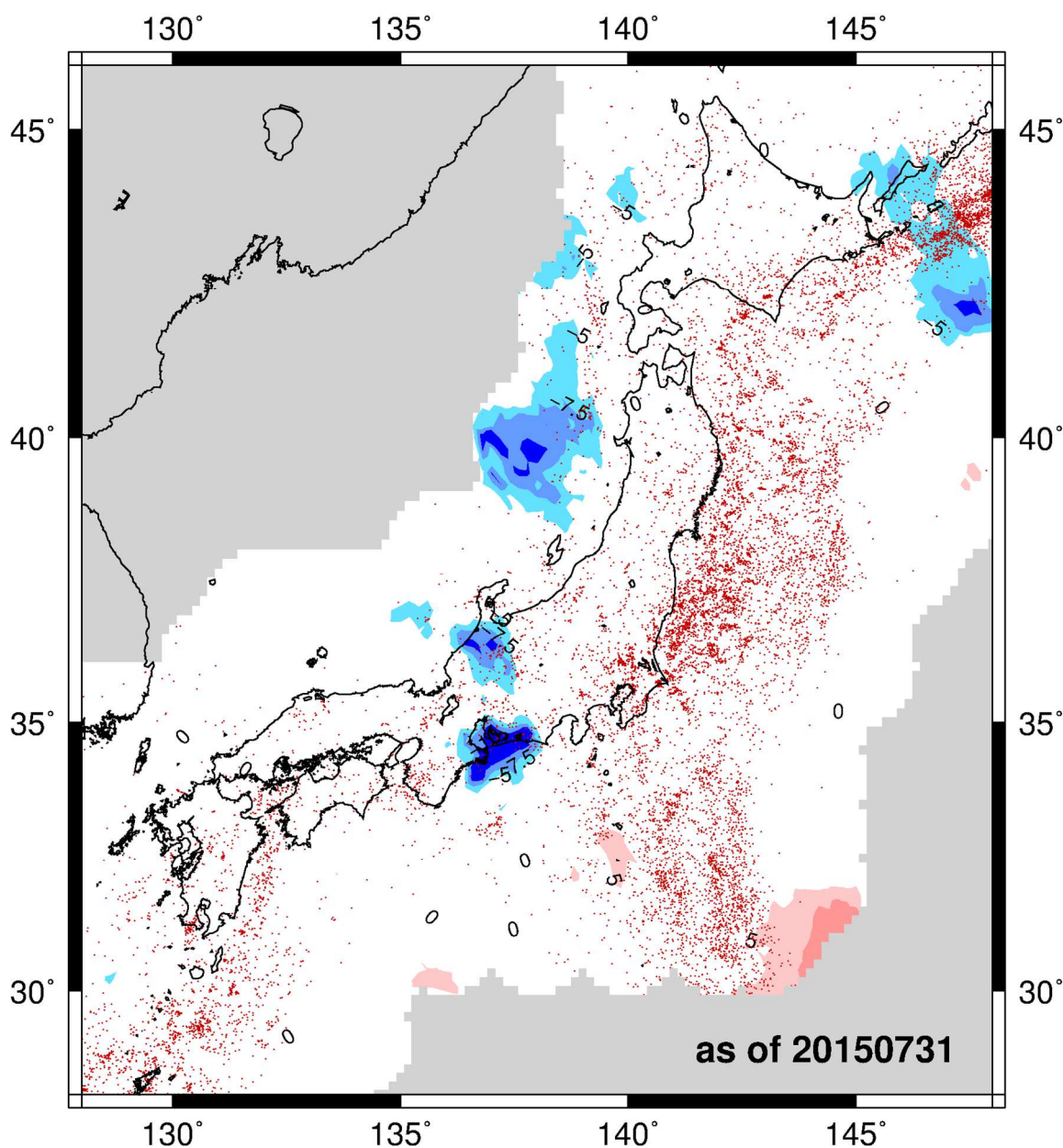
日本列島全域を解析する場合、やはり2011年の東日本大震災によって、日本列島の地下の状態が全く変わってしまい、過去の傾向との連続性を確保するのが非常に大変な状態が続いています。そのため、複数のパラメータで計算を行って、共通のパターンが確認できる時は“真の異常”の可能性が高いという判断を現時点では行っています。右側の図は4月30日の



段階でのあるパラメータによる解析結果です。

どうしても東北地方に311の影響が残っています。今回は、日本列島全域での解析について、より東日本大震災の影響をうまく考慮したパラメータを用いて再計算を行ってみました。下の地下天気図は7月31日時点の最新のものです。

この地下天気図でも前頁の地下天気図でも共通して現れている異常は日本海の異常です。また愛知県から紀伊半島にかけての異常も同じく確認することができます。これらの青い領域は「地震活動が相対的に低下」している領域で、将来比較的規模の大きい地震が発生する可能性の高い領域です。特に日本海・秋田沖の領域は、地震学的にも「将来津波を伴う地震が発生する」と考えられている地域であり、この異常は消えるような段階になると十分な注意が必要となります（逆に言えば現在すぐに発生する状況ではないと考えています）。



地下天気図の見方などは http://www.sems-tokaiuniv.jp/DuMA/Tenkizu_Mikata2.pdf を適宜ご参照ください。